

大正五年四月六日第三種郵便物認可 大正十一年十月二十五日印刷(納本) 毎月一回(一日發行)

# 哲 學 研 究

第七卷 第十一册  
第十八號

大正十一年十一月一日發行

アツハの近業、概念形成の實驗的研究(承前).....	文學士 大脇 義一
宗教的規範意識に關する考察.....	文學士 菅 圓吉
社會の概念.....	文學士 銅 直 勇
歴史に於ける普遍關係.....	文學士 丹羽 正義
什譯法華提婆品に就いて.....	文學博士 松本文三郎
ホルツァーノの自傳.....	文學博士 西田幾多郎
彙報、新著紹介其他.....	

京都帝國大學文學部  
京都哲學會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ 會員タルコトヲ得 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

書記	委員	
	文學士	植田壽藏
	文學博士	狩野直喜
	文學博士	小西重直
	文學士	澤村專太郎
	文學博士	高瀬武次郎
	文學博士	田邊元
	文學士	千葉胤成
	文學博士	朝永三十郎
	文學博士	西田幾多郎
	文學博士	野上俊夫
	文學博士	波多野精一
	文學博士	深田康算
	文學博士	藤井健治郎
	文學博士	松本文三郎
	文學士	務臺理作
	文學博士	米田太郎
		寶嚴方夫

たるべく外遊中である。理論と實際とを兼備した氏程の人は東西共に當代稀に云つても溢美ではあるまい。而して氏が大學卒業後外遊迄にものされた論文を集めたものが此の「批判的教育學の問題」である。

本書を讀み了つた時久しぶりに學術的の書を讀んだといふ感じがした。大旨の雲霓を得たといふ感がしたけれども只それ論文集である。全體としての組織に立てぬない、大綱だけを捉へて細目には互つてぬない、此れが若し全體として組織立ち細目に迄説及んであつたならば讀者はどんなに喜ぶであらうふと思つた。

内容は一、最近の教育理想、二、生活準備と連續的發展、三、社會的教育學の概念、四、教育即生活論、五、創造的自由活動と類化、六、個性と教育、七、自由と創造と教育、八、教育の根本原理としての辨證法、九、學習動機としての論理的確信、十、愛と教育、十一、ゲューイの教育論の十一項に分れてゐる。立脚地を新カント派に取り教育學の根柢、理想論方法論迄にも論理を展開して行つたものである。

著者は今糾着にあるとか、やがて獨逸に渡らるゝ事だらう。そして獨逸派の哲學者にも遇はれ、一層廣汎な哲學的背景を有せらるゝ事になる事と信ずる。序文にある如く之は氏の一里塚である一里塚迄追付いて來た自分ば更に第二の一里塚迄追付きたいと非常な興味を以て其建設を待てゐる。

世の教育學者、實際家にして學的根據を要望する人に切に一讀を奨む。定價參圓五拾錢、寶文館發行(伊藤猷典)

## 寄贈書籍雜誌

### 宗教的理性

京都 金子大榮著  
中外出版株式會社

### 華嚴哲學研究

東京 龜谷聖壽著  
會

### 現代哲學への道

東京 川合貞一著  
東光閣書店

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、東洋哲學、日華公論、  
教育研究、内外教育評論、學校教育、教育、教育學術界、教育時  
論、國際聯盟、教育界、精神運動、文化運動、三田文學、藥王樹

### 前 號 目 次

繪畫の優劣は如何にして可能なるか……………	文學士	植田壽藏
アツハの近業、概念形成の實驗的研究……………	文學士	大脇義一
順世外道論(完)……………	文學士	手島文倉
財産の倫理的性質……………	文學博士	藤井健治郎
新著紹介其他……………		

會 告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ規定ノ會費（前表紙裏ニアリ）御納付ノ上御申込被下度候  
 二、會員ニシテ轄居ノ節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六叁番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介、新刊書、寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
 文學部内  
 京都哲學會  
 振替口座大阪參〇六六叁番

註 文 規 定

◎ 會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候  
 ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎ 振替貯金にて御送金は（振替大阪三三九五五番三三三三番東京三三三三番）内外出版株式會社宛に願上候  
 ◎ 前金切れの場合は帯封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊 數	定 價	郵 税
一冊	金四拾錢	壹錢
六冊	金貳圓四拾錢	不申
十二冊	金四圓八拾錢	不申

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十一年十月廿五日印刷刷本  
 大正十一年十一月一日發行  
 第八十號 第七卷 第十一册  
 京都帝國大學文學部内

不許複製  
 禁轉載

編輯者 京都哲學會  
 右代表者 寶嚴方夫  
 發行者 大谷仁兵衛  
 印刷者 村上勘兵衛

發行所

京都市下京區西洞院七條南  
 内外出版株式會社

本社 京都市下京區西洞院通七條南  
 出張所 東京市京橋區加賀町十番地  
 販賣所 東京市神田區錦町一ノ一  
 内外出版株式會社

賣捌所  
 (大坂) 盛文館 三文社  
 (神戸) 寶文館 川瀬書店  
 (京都) 共盛社 大盛社  
 (東京) 東京堂 東海堂 北隆館  
 上田屋 至誠堂

京都帝大講師 大谷大學教授 寺本婉雅著

新刊

# 西藏語文法

歐洲戰後思想動亂の結果、その思想統一を東洋佛教に求め、梵語梵梨語の原典が盛に研究せられてゐる。而かも梵巴兩語原典のみにては大乘的思想史研鑽には未だ不充分なるに氣附かじめられた。今此不備こそその思想に新光明を投ずるものは西藏語譯の原典である。そして夫が哲學・宗教・醫學・天文・植物等東洋百科全書として、世界の學界の前に提供せられてゐる。本書は實にその寶庫を開くべき鑰匙として出現したのである。西藏探檢者、西藏學研究の第一人者たる著者は時代の要求に應じて幾多の苦辛と萬難を排してこの創業を企てたのである。猶卷末に馬鳴が迦膩迦王二世に送れる書翰文を藏和對譯して載せ、是れに依て迦王二人說諍論解決の新史料に供してゐる。藏文活字の著書は我が國に最初を試みであつて、又此種の刊行は當出版會社の誇譽とするところである。

菊判貳百餘頁
クロース美裝
定價參圓五拾錢
郵稅拾貳錢

社會式株版出外内

(振替口座内大番) (參貳九五五番)

京都市下京區  
西洞院七條南

元兌發

(大正五年四月六日) 大正十一年十月廿五日印 刷 師 本  
第三種郵便物認可) 大正十一年十一月一日發行(毎月一回一日發行)

哲學研究 第八十號

定價金四拾錢

郵稅金壹錢